

第3回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日 時 令和3年3月26日（金）午後1時30分から午後3時15分まで

2. 場 所 角田市役所301会議室

3. 出席者

(1) 角田市長期総合計画審議会委員 23名（別添委員出席者名簿のとおり）

(2) 事務局 11名（別添事務局出席者名簿のとおり）

(3) 角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者 5名
（七十七リサーチ&コンサルティング株式会社）

調査研究部 部長 山下 勝善

調査研究部 担当部長 佐藤 渉

調査研究部 上席研究員 木村 暢男

調査研究部 上級研究員 皆川 乾介

調査研究部 上級研究員 片桐 拓也

4. 内 容（概要）

1 開会

2 会長あいさつ

年度末のお忙しいところご参集いただき誠にありがとうございます。

今から10年前、東日本大震災が起きました。そして現在のコロナなど、この10年間の間に世界史や国内の政治、物の考え方を揺るがすような動きといったものがありました。今後10年間でもっと大きな変化が訪れるかもしれません。この長期総合計画ですが、そういった意味でも、角田市民のための羅針盤としての役割を果たすように最終的には仕上げていきたいと思っております。

市民から出てきた色々なアイデア、考え方、あと関係する機関の様々なご意見が集まってきておりますので、本日の審議会を通じまして、是非とも皆さんにその方向付け、使うべきもの、そして忘れてはいけないようなことなど意見を頂戴し、次回に繋げていきたいと思っております。ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただければと思っております。

よろしく申し上げます。

3 市長あいさつ

本日の第3回審議会開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

年度末のお忙しい中、多くの皆様にご参集賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、この第3回目となる審議会におきましては、前段で第6次長期総合計画策定に向けてこれまで行って参りましたトップインタビューの結果、市内の事業者、各種団体

などへのヒアリング調査、アンケート調査の結果、それから1月から2月にかけて4回開催させていただきましたワークショップの結果について、事務局よりご説明をさせていただきます。

これらの結果と、これまで実施してきた基礎調査や市民アンケート等の結果などを踏まえまして、本日は皆様に第6次長期総合計画に掲げる本市の都市像について、自由にご議論をいただきたいと考えております。

急速な人口減少、少子高齢化、そして厳しい財政状況という大きな課題を抱えているこの角田市でございまして、これまでの各種取り組みから見えて参りました市民の皆様が求めていること、そういった課題を全て実現または解決することはなかなか難しい状況であると認識しておりますが、そうした状況の中でも何に重点を置いて、どのような方向性でまちづくりを進めていくべきなのか、本市の置かれている状況や市民の皆様の声をしっかり踏まえ、委員の皆様には知見を基にした忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます、ご挨拶とさせていただきますと思います。

どうぞ本日はよろしくお願いたします。

4 報告

○ 活動経過報告【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】

事務局（齋藤企画調整係長）より、【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】に基づき、説明を行った。このことに関する意見等はなし。

5 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

(1) 第6次長期総合計画の策定に関する意見への回答（案）について【資料1】

事務局（齋藤企画調整係長）より、【資料1】に基づき、説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおり。

〔堀米委員〕

この意見は非常に率直で私も賛同できる部分もある。特に、市民の力を使って今後のまちづくりを進めていくべきという最後の部分。この長期総合計画が美辞麗句を並べるだけでなく、メッセージが伝わるものにしてほしいという意見は私も非常に共感できる。その点について回答（案）は、メッセージが弱いと思う。もう少し、この長期総合計画策定にあたって、今後10年の市政のなかで市民と一緒に地域づくりを進めていくという決意が感じられる、もう少し踏み込んだ回答をしては如何かと思う。この審議会に参加している私の個人的なテーマである市民の力をどう活かして地域づくりをしていくのかという一点において今後も発言したいと思うので、ご検討いただきたい。

〔玉淵企画財政課長〕

確かに回答（案）では、最後に「市民力を活かした計画策定を心掛けており」ということしか書いておらず、メッセージが弱いのご指摘のとおりである。本日は、4回のワークショップ開催で見えてきたものを説明させていただくが、審議会委員の皆様方からの様々なご意見も整理し、付加したうえで回答したい。

(2) トップインタビューの結果について【資料2】

事務局(角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者(七十七リサーチ&コンサルティング株式会社))より、【資料2】に基づき、説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおり。

[齋藤(勤)委員]

2点のことについて意見したい。1点目は、持続可能な財政運営という観点で。私は退職前、市役所で主に財政、会計の仕事をしていたこともあり、公表されている内容は、市として実態を把握していないような市民への説明ではないかと思う時がある。公債費や扶助費というのは大きな要因ではなく、人件費や補助費など本質的なものの分析を正しくして、これから市民とともに歩む計画とするのであれば、正しい情報を提供してほしいということが1点目である。

もう1点は、生命を守る、財産を守るのが第一義的な行政の仕事でもあるかと思うが、インタビューではソフト面が強調されていると思う。ハード面もまだ十分ではなく、例えば角田市管理の河川の浚渫については、土木サイドのものは着手されたようであるが、農林サイドのものも実施していただきたい。関連し、台風19号で問題となったのは、県管理の河川ではないかと思う。そういった意味で県にも強く要望してほしい。

[黒須市長]

1点目の財政的などところは委員ご指摘のとおりだと思う。その経験からのご指摘として、しっかり精査をした形で正しい情報を示していきたいと思う。ただし、特に財政が厳しいということをはなかな言わずに、色んなことを総花的に言ってきたこともあろうかと思うので、これからはしっかりと全ての情報を市民の皆様へ開示して、そのうえで一緒に立て直しを考えていくということが非常に大事だと考えている。

もう1点については、ソフト面というところを強調しているが、当然ながらハード面が前提である。特にハード面については、行政がしっかりとやっていく部分である。こちらについては、現在、地域防災計画、それから防災・減災構想の策定を進めているが、その中でもしっかりとソフト面、そしてハード面に取り組む計画としており、既に着手している部分も数多くある。ご指摘のとおり、角田市だけで出来るのではなく、河川については県が管理する阿武隈川があるので、しっかりと要望、働きかけをしていく。

(3) 事業者等ヒアリング調査の結果について【資料3】

事務局(角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者(七十七リサーチ&コンサルティング株式会社))より、【資料3】に基づき、説明を行った。このことに関する意見等はなし。

(4) 「かくだワークショップ」の結果について【資料4】

(5) 本市の都市像について【資料5】

事務局(玉渕企画財政課長)より、【資料4】及び【資料5】に基づき、説明を行った。このことに関する意見等、また、(1)～(5)の内容、これまでの基礎調査、市民意識調査等を踏まえての本市の都市像に関する意見等は以下のとおり。

[柳井会長]

ワークショップについては、毎回50名弱の方が参加し、かなり熱心な議論を行って

いただいた。色んなアイデアも出て、言ってみれば標本調査になるかもしれないが、角田市が持つ課題や強みが出てきた。今日お示した内容はその結果だと考える。コンサルタントは今回黒子として、データの整理、最後のまとめを主に担当した。そういった意味で、市民が主役という位置づけであるので、そういった位置関係であることをこの結果を受けて改めて私から説明した。

[武智委員]

ワークショップに4回参加して私なりに感じたことは、キャンプやボルダリングなど色々な話が出て、若い方、高校生の意見など、生き生きとした印象を持った。普通に計画を作ると、自然に福祉関係など、年齢を重ねた方に寄ってしまいがちだが、若い方の意見をどのように吸い上げるかというところもこの計画策定に当たって重要であると感じた。

[小野(孝)委員]

私もワークショップを見学し、若い方が多く、意見をまとめられるのか不安に思ったが、回を重ねるごとに皆さん意見を出し合いながらも、互いを認め合ってまとめていく姿が頼もしかった。予算もあることで、意見が全て通るわけではないと思うが、自分たちが携わったことが実行されれば、もっと市政に関心を持ってくれるきっかけになると思う。

[武智委員]

行政経営推進委員会に籍を置いており、長期総合計画の進捗チェックも行っている。第5次長期総合計画の進捗状況、反省も踏まえて進めていると思うが、第6次長期総合計画は何が違うのか。例えば、デマンド交通については、ずっと課題としてある。それは解決できる問題なのか、市民には見えてこない。当然努力していると思うが、市民にとって分かりやすくフィードバックしながら進めていただきたい。

[玉淵企画財政課長]

既に昨年、第5次長期総合計画の分野別計画について、それぞれのカテゴリーでどこまで出来たかというところは評価を行い、皆様にも資料として配布している。そういった中でも、特に公共交通の話は、デマンドも含めて意見を頂戴している。角田市としては力を入れてきたと考えているが、市民意識調査における満足度調査では、残念ながら住民の方々にすれば足りないという結果が出ている。大河原町との関係性や、地域間交通となるとバス事業者の道路走行上の法律との兼ね合いもあり、なかなか進まない状況であったが、来年度に今までと取り組みを変えて進めることにより、一定程度道筋が見えてきている。

今後10年間をかけてどこまで出来るかというところを個別の施策としてこの総合計画でどのように盛り込むのかは、今後の話になる。また、第6次長期総合計画の評価体制については、今後の審議会の協議事項として資料を準備させていただく。

[堀米委員]

私も市民ワークショップを見学し、とても色々な意見が出ていて、私も思いつかないようなアイデアもあり、すごく面白いという印象を受けた。ただし、色々なアイデアや要望など夢はいっぱい出て来たが、それをどうやって実現するのかということに関し

ては全く踏み込めていなかったのではないか。それをどうやって実現するのかということが、この長期総合計画の重要な位置づけになると思う。先ほど市民意見にもあったとおり、結局、長期総合計画なので悪いことは書けない、良いことは書くけれどもそれをどうやって実現するかということについては踏み込まないということになると、無責任な長期総合計画という市民の率直な意見になると思う。どうやってそれを実現するのか、それを実現できるまちをどうやって作っていくのかを長期的なビジョンとして掲げていく必要があり、もう少し明確にしないと議論が進まないと思う。

〔玉渕企画財政課長〕

長期総合計画は、角田市の最上位の計画であり、柳井会長がおっしゃったとおり市民にとっての羅針盤ということになる。今後10年、20年先を見据えたときに、これまでの市民ワークショップなどを踏まえた都市像、イメージを掲げる必要があり、出来る限り住民目線でこういったまちにしたいというような審議会委員の皆様のご意見もいただいたうえで、次の会議で提示したい。行政、市の職員が手前勝手に色々考えてそれを審議していくというよりは、10年後、15年後、20年後を見たときにこういったまちにしたいというイメージ、キーワードをいただければ幸いである。

〔堀米委員〕

私としては、市民力というか、市民が自分たちの地域を良くするというところに何処まで関わっていけるかということが、これからの一番のポイントであり、それをどうやって醸成していくのかということを中心に考えていく必要があると考える。これは1年や2年では出来ず、10年で出来るかどうか分からない。そういう意味でこの長期総合計画を、市民参画社会を作り上げていくための最初の10年と位置付けては如何かなと思う。つまり、これを一緒にやっという市民に投げ掛ける、覚悟といったものをもう少し明確に出していくと非常に中身のある議論が出来るのではないかなと思う。

〔柳井会長〕

非常に参考になるご意見であり、留意して今後話を進めていただきたい。

〔毛利委員〕

私もワークショップを見学したが、若い人の力を吸い上げようという雰囲気が出ていた。それを受け止めてもっと市民力、結束力が出てきて、そこからビジョンが生まれる、みんなで作り上げるビジョンが明確になればいいかなと思う。

〔砂金委員〕

ワークショップの資料の中で、廃校舎利用では飲食関連施設とするだけでなく学びの場として人を育てる拠点とすることを検討すべきだという項目がある。廃校の有効活用については各地区で住民も非常に興味を持っており、拠点整備も今年から東根小学校、西根小学校で始まっている。また、来年、再来年には枝野小学校、藤尾小学校の再編もあり、近い将来中学校においても統合や再編が行われるということが決定している。このような形で進んでいくということからすれば、これをきっかけにして住民が意見を言える、そういう場づくり、雰囲気を作っていく、少しでも気楽に忌憚のない意見が出るようなことをやっていくべきだと考える。こういう目の前に迫っている機会を捉えて地域住民と話し合うことで、場合によっては今我々が考えている5年後、10

年後、そして20年後、30年後にこうあってほしいという話も出てくると思う。今、話題になっている小中学校の跡地利用、それに少し力を入れてみてはどうかと思っている次第である。

〔黒須市長〕

今回、東根小学校が閉校になるということで、事前にアンケート調査を実施した。加えて地域住民とのワークショップを先々週と今週の2回開催する。これを一つのきっかけとして、様々な東根の課題が出てきて、それを市民と行政が、どう廃校を利用しようかを検討する。そして学校というのは、やはりその地域の中心であった訳なので、それを再活用するというはその地区をこれからどうするかということに繋がるということである。その中には若い人、それから高齢者など、各年代の方が入って一生懸命議論して、そういったところから出てくる答え、方向性というのはやはり地域のこれからの進むべき道のひとつなのではないかと思う。

地域の活性化、地域の生き残り、持続可能という意味で、市民の目線で、市民の皆さんが自分の力で議論を起こして、そしてみんなが顔の見える関係のなかで議論して、納得をして、自分たちで出来ることは自分たちでやるんだという仕組み、社会を作っていくということが、角田市のこれからの方向ではないかと思う。

今回のワークショップで出たものも大変大切であるが、ワークショップ自体、個々の営み自体ができれば角田市全体の方向性になっていけばと考える。ただ、議会もあり、市の行政もあるので簡単にはいかない部分もあるが、各地域で課題があるのであれば、その課題を各地域で議論をして、そこで出たものを市に上げていくとか、そういう仕組みを作っていくと、市民がこの角田市を作り運営していくという意識に皆さんになっていただけるのではないかと思っている。それは一朝一夕でできるものではないが、始まるの計画にしていかなければならないと思っている。

(黒須市長公務のため途中退席)

〔柳井会長〕

ひとつの行政のレトリックとして、「人口減少＝寂しい」といった話があるが、ヨーロッパに行かれた方だと分かるかもしれないが、人口が少なくても元気なまちはいくらでもある。つまり、それは人と人の付き合い方とか、拠点をどう活用するかによって違って来る。人口減少を恐れるのではなく、むしろ新しい共助の仕組みや新しいコミュニティを作っていく、そういった中で廃校を活用していくことを位置付けていくと、いろんな使い道がそれぞれの地域で出てくると思う。そういう活きた使い方、土地利用も是非考えていただくと今後の角田市にとって有益であると思う。

〔齋藤(勤)委員〕

3点意見がある。1点目として、【資料5】の「自然特性」に令和元年東日本台風に関する箇所「阿武隈川」と出ているが、既に阿武隈川はほぼ整備されているというのが基本的な姿勢ではないかと思う。ついては、小田川や尾袋川など身近な河川の名称を使ったほうが市民にとって分かりやすいのではないか。

2点目として、ワークショップの中で、私が住む東根地区についての言及がなされていなかったように思う。資料の出し方、地図の出し方も角田市全図と市内中央部を一緒に出した関係もあって、市街地中心の考え方が出てきたと考える。誘導的ではないとし

ても、皆さんの意識としてそのように感じたところである。

3点目として、事業者等ヒアリング調査の結果を見ると、台風の際、角田への通勤を想定した対応を求めているというか、企業活動をするうえで商品等の輸送よりも従業員の足を確保出来なかったということが大きな問題ではなかったかと思う。については、いろんな企業対策のひとつとして、これも県や国の道路関係にも関連すると思うが、通勤経路確保の視点も入れることが重要になるのではないかと思う。定住が望ましいが、企業活動をするうえでも企業が休まなくても済むようなルートを確保するような施策についても、県や国への働きかけが今まで以上に必要になるのではないかと考える。

加えて、先ほどあったデマンドバスについては、医療機関との関係、中核病院との位置づけもあり、中核病院で最初に見て診断していただいて、あとの通院は地元の医院という形が、医療システムのなかでの位置づけだったと思う。毎日の治療まで中核病院でということになると、医療関係の整合性なども図る必要があると思う。

[玉淵企画財政課長]

まず1点目の、阿武隈川よりもその他の小田川等の記載がいいのではないかということについては、確かにそういった側面はあるが、阿武隈川水系という意味合いで記載している部分もあるので、そういった意味合いをご理解いただきたい。

2点目の地図の部分、標記の仕方として市内中心部へ誘導的に見えたところのご指摘だが、全体を示した中で市内中心部の案が多く出て、そこをすべて角田市全図に入れることが出来なかったことから、拡大図という形で別抜きにしているので、決して誘導的ではないことをご理解いただきたい。

[中村市民福祉部長]

中核病院までの患者さんの送迎については、基本的には救急関係は中核で診て、その後は地元で通院ということが基本的な病院の関係であるが、中核病院では救急だけでなく一般の治療も受けられるということから、中核病院へのバスを出してほしいとの要望は以前からあったこと、また今回のワークショップの中でも提案があったことから、資料に記載している。

[安藤副会長]

国の政策に基づいて、病床再編・医療機能の再構築が進められてきている。つまり国は、高度救命および高度専門に関しては中核的な病院が司り、それ以外の方や高度の救命処置や手術が終わったときは、その地域の医療機関で診てもらおうというような機能分化と連携を進めている。国の地域医療構想調整会議において、仙南医療圏では、高度救命等に関してはみやぎ県南中核病院という位置づけである。つまり地域包括ケアシステムの中で、それぞれの地域事情に合わせて機能分化・連携という流れになっている。

6 その他

事務局（齋藤企画調整係長）より、【資料6】に基づき、本審議会における今後のスケジュール、協議内容について説明を行った。このことに関する意見等はなし。

7 閉会

第3回角田市長期総合計画審議会委員出席者名簿

令和3年3月26日

No.	役職	氏名	所属等	構成区分	備考
1	会長	柳井 雅也	東北学院大学 教授	知識経験者	
2	副会長	安藤 由紀子	角田市医師会	知識経験者	
3	委員	遠藤 恵美子	角田光の子保育園 園長	知識経験者	
4	委員	遠藤 摂子	社会福祉法人 あけの星会 理事長	知識経験者	欠席
5	委員	狩野 裕一	大河原地方振興事務所 地方振興部長	知識経験者	欠席
6	委員	上條 徹	アイリスオーヤマ(株) マネージャー	知識経験者	
7	委員	菊地 恵美子	みやぎ仙南農業協同組合 理事	知識経験者	
8	委員	齋藤 善宏	日立Astemo(株) 人財統括本部 総務部K 宮城総務課 課長	知識経験者	
9	委員	菅原 満	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター 角田管理課 課長	知識経験者	
10	委員	戸田 宏士	戸田宏士司法書士事務所	知識経験者	欠席
11	委員	一柳 知秋	七十七銀行 角田支店 支店長	知識経験者	
12	委員	堀米 荘一	合同会社あぐりっとかくだ 代表社員	知識経験者	
13	委員	松本 篤志	連合宮城仙南地域協議会 角田地区会議 議長	知識経験者	
14	委員	砂金 甚一	角田市社会教育委員	公共的団体の役員	
15	委員	遠藤 清子	角田市民生委員児童委員協議会 西根地区会長	公共的団体の役員	
16	委員	小野 孝子	角田市統計調査員協議会 会計	公共的団体の役員	
17	委員	小野 陽子	角田市各種女性団体連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
18	委員	加藤 泰彦	角田市商工会 会長	公共的団体の役員	
19	委員	齋藤 勤	角田市環境衛生組合連合会 会長	公共的団体の役員	
20	委員	佐久間 幸男	角田消防署 署長	公共的団体の役員	
21	委員	島津 恵美	角田市民生委員児童委員協議会 主任児童委員部長	公共的団体の役員	
22	委員	高野 絹子	角田市商工会 女性部 副部長	公共的団体の役員	
23	委員	高橋 輝昭	角田市行政区長連絡協議会 会長	公共的団体の役員	
24	委員	武智 照道	角田市行政区長連絡協議会 副会長	公共的団体の役員	
25	委員	毒島 弘美	角田市教育委員会 委員	公共的団体の役員	欠席
26	委員	毛利 良子	角田市芸術文化振興会 会長	公共的団体の役員	
27	委員	渡邊 峰雄	角田市スポーツ協会 理事長	公共的団体の役員	

第3回角田市長期総合計画審議会事務局出席者名簿

令和3年3月26日

策定本部

No.	役職	職	氏名	備考
1	本部長	市長	黒須 貫	途中退席
2	副本部長	副市長	牛澤 順	
3	副本部長	教育長	佐山 富夫	
4	委員	総務部長		
5	委員	市民福祉部長	中村 方彦	
6	委員	産業建設部長	日下 茂夫	
7	委員	教育次長	森山 旭	
8	委員	会計管理者	泉 隆司	欠席

事務局

No.	職	氏名	氏名
1	企画財政課 課長	玉 淵 和 紀	
2	企画財政課 課長補佐	大 槻 康 弘	
3	企画財政課 企画調整係 係長	齋 藤 謙	
4	企画財政課 企画調整係 主査	長 田 孝 奈	
5	企画財政課 企画調整係 主査	安 達 宗 平	